

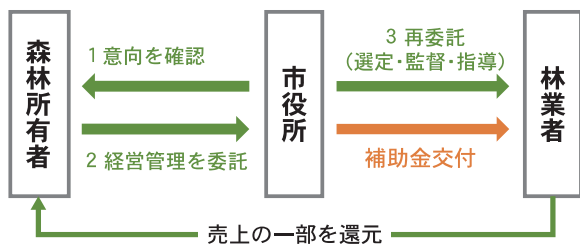
森林整備



小別沢の一部の森林では、令和3年度から「森林経営管理法」(平成30年法律第35号)を活用した森林整備が始まっています。これは、札幌市が仲介役となり、樹木の伐採や販売の権利を森林所有者から林業者に委任するもので、道内では初の事例です(下図参照)。

小別沢の地域特性に合わせた「森林の多面的機能を持続的に維持・増加させ、人や地域・社会とのつながりを大切に作る森づくり」を目指しています。

札幌市は、林業者を選定し、監督・指導するほか、補助制度等によって支援し、森林が小別沢の新たな魅力として活用されるよう継続的に関わっていきます。



森林経営管理法に基づく森林整備

+

札幌市森林整備事業補助金

札幌の「里山」

里山は、「人里近くにあって、その土地に住んでいる人のくらしと密接に結びついている山・森林」(広辞苑)とされており、山間の水田や畑、集落など日本ののどかな原風景を想像される方も多いことでしょう。

一方、札幌市では、「市街地の周辺にあって、緑が比較的豊かであり、緑を保全し、及び創出しながら市街地周辺にふさわしい土地の活用を図る山地丘陵地域」を「里山地域」と定め、「私たちは、都市活動のあり方を見直し、生涯にわたって安らぎや潤いを感じることのできる緑の豊かな自然と調和した都市環境を築き上げ、そしてこの緑豊かな札幌を幾世代にも継承していくことができるようにしなければならない」^(※)としています。里山地域を、自然と調和した都市環境を築くための重要な地域と考え、市民共通の財産としていること、今あるものを守りながら新たに築いていくものとしているところが特徴です。

西区や南区、清田区などの山間地域では、森林を背景として農地があり、自然に囲まれた人の暮らしが残っています。こうした地域を訪れ、応援する人も多くいますが、里山地域という財産を次世代につなぐためには、地域の魅力を維持・向上させ、発信していく、市民と行政が連携する仕組みが重要です。特に、農地と比較して、山(森林)は管理や活用がされていない場合が多く、人との結びつきを感じている方は、少ないのではないのでしょうか。

山と農地が、そこに住む人の暮らし、さらには街ともつながることで、様々な事業や活動が生まれ、発展し、かけがえのない魅力になっていく。札幌の里山は、そんな可能性を秘めています。

※『札幌市緑の保全と創出に関する条例』より抜粋

里山地域の

～西区小別沢～

活性化

札幌という人口200万人を抱える大都市の中で、自然と人が調和して暮らす里山には、貴重な環境や資源があります。札幌市では、里山地域における「地域が主体となって『森林』と『農地』の一体的な保全・活用を進める取組」を推進しています。

このリーフレットは、里山地域活性化のモデル地区である西区小別沢の取組を地域内外に発信することを目的として、札幌市と地域の方々が、約4年間一緒に模索してきた経過をまとめたものです。

令和5年(2023年)3月

里山地域の活性化 ～西区小別沢～

【編集・発行】

札幌市経済観光局農政部農政課(市役所7階南)

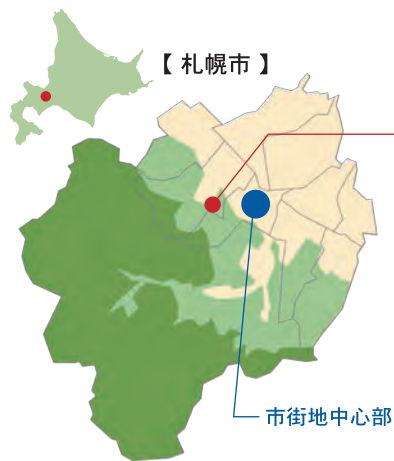
〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目

TEL(011)211-2406

札幌市役所公式ホームページでも紹介しています

<https://www.city.sapporo.jp/nogyo/satoyama.html>

SAPPORO



【札幌市】

西区小別沢

西区小別沢は、札幌市の中心部から車で約15分という近さにありながら、四方を山に囲まれ、豊かな自然環境が残る里山地域です。小規模で多様な農業が行われています。

市街地中心部

1. これまでの取組

～2018

地域の取組・個別の活動



小別茶話会

2019

住民・森林所有者へのヒアリング
意見交換会 1回



小別沢新聞

2020

小別茶話会 2回
ミニイベント 1回
小別沢新聞 6回



イベント

2021

小別茶話会 4回
小別沢新聞 5回
森林整備を担う林業者が決まる



森林整備

2022

小別茶話会 4回
小別沢新聞 5回
森林整備スタート

2023～

地域主体の取組の具体化・継続

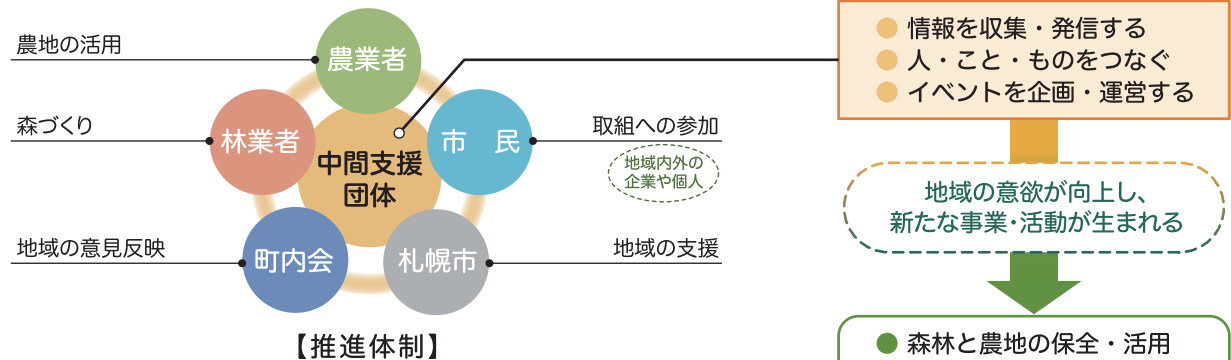
目標：里山地域の活性化（魅力・価値の向上）

2. 取組のキーワード

小別沢では、農業者の高齢化や減少などによる地域コミュニティの希薄化や農地の荒廃が危惧されており、以前から、地域活性化に向けて町内会や有志が各々活動していました。2019年からは、札幌市も地域の輪に加わり、森林と農地という里山ならではの資源を活用した地域の魅力や価値の向上について検討を始めました。話し合いの場である「小別茶話会」やニュースレター「小別沢新聞」の発行などを重ねてきた結果、子や孫など、次の世代が里山の魅力に触れて楽しみや学びを得られる場所、あって良かったと思われる場所になるように、『自然と人の共生』『景観保全』『街と里山のつながり』をキーワードとして取り組んでいくことの重要性が共有されました。

3. 取組の推進体制

中間支援団体^(※)を中心に多様な人と分野が連携することで、様々な取組を創出・発展させていきます。この新たな地域主体の仕組みを実現するため、札幌市は情報提供や広報、補助金制度の創設等により、継続的に支援していきます。



※【中間支援団体】 地域に関連する情報共有や意見交換を行う等のネットワーク機能や、地域の農林業者や住民等を相互につなぐコーディネートの機能を有し、情報の提供や相談等、地域の活動をサポートする団体。

4. 地域のアイデア

街の近くにある里山という小別沢ならではのアイデアがたくさん生まれています。今ある良いものを守りながら、新たな事業や活動が加わることで、地域の活性化につながっていくことが期待されます。

現在



良好な景観

今後



将来図

+

アイデア
をプラス



半農半林



コミュニティ農園



さとやまマルシェ



木材利用



体験イベント